

# ふるさとと探訪

(19)

まれるようになった。「馬場の常小屋」は、綾部における近代大衆娯楽の幕開けを担ったといえよう。

現在のJR綾部駅の東側一帯に、かつて「天神馬場」と名付けられた場所があった。いつからこう呼ばれるようになったのかは定かでない。

## 憩いの場だった「天神馬場」

JR綾部駅  
東側一帯

綾部町の憩いの場となった。当初、綾部駅は味方町に設けられた。

## 芝居小屋建ち大道芸も

### 近代大衆娯楽の幕開け担う

秋になると毎年、芝居小屋が建てられた。芝居が上演される日に

この場所は、綾部藩の城下町として形成されていった西町や本町、広小路などの位置関係から見ると、北西にあり、まわりは田畑が広がり、いわば町はずれの地であった。

その後、長楽舎は明治三十四年に綾中町に移されて「長楽座」と改称し、活動写真などを上映するようになった。しかし大正十一年の火災で焼失。二年後の同

ころ、綾部町区の有志らが反対し、市街地近くに誘致する運動を展開。綾部町区

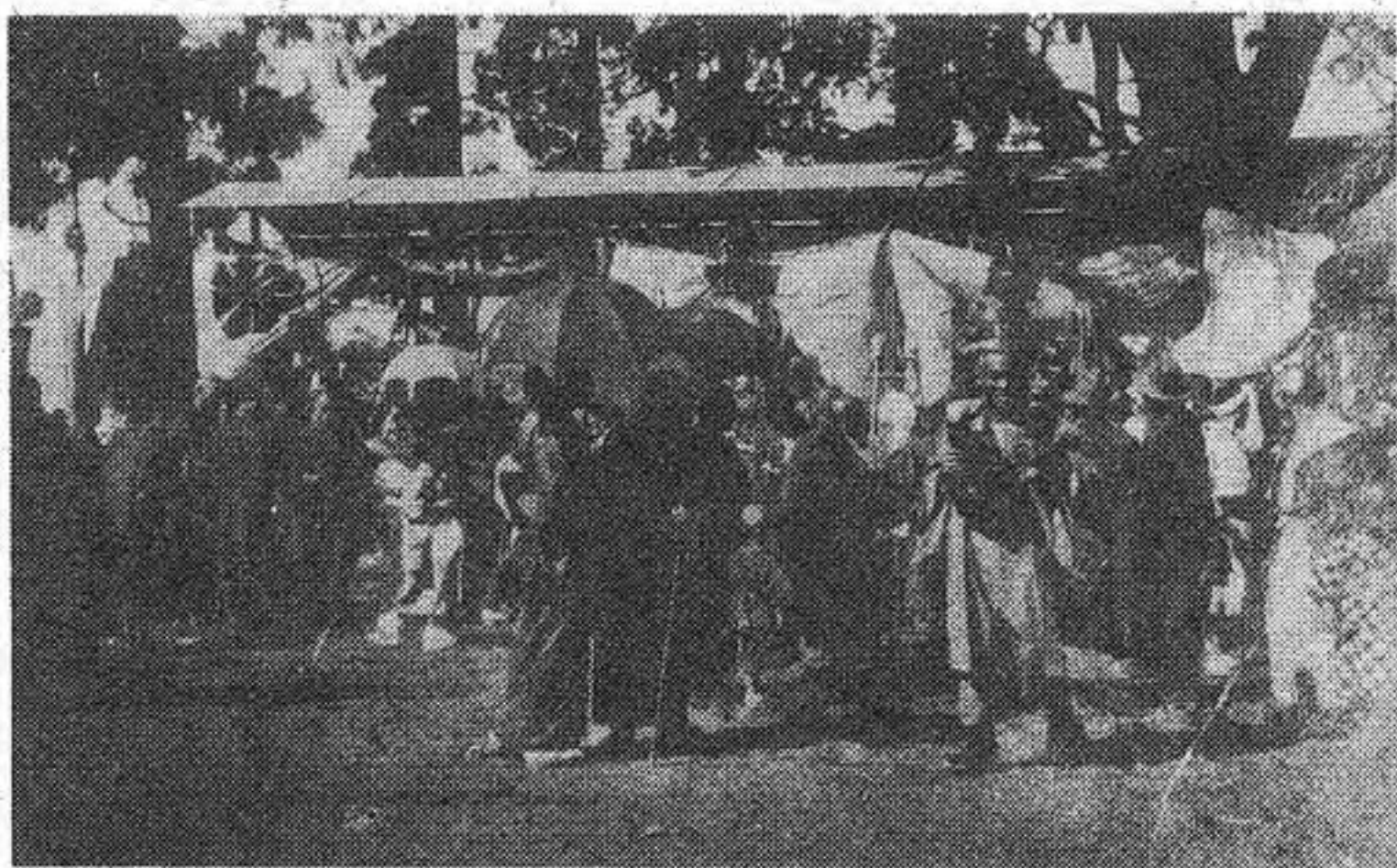
は、寺山(藤山)の頂上から打ち鳴らされる太鼓が市街地に響いた。また秋祭りの際には、綾部町区内の四

そんな天神馬場に明治十四年、当時の実業家だった堀勘七氏(故人)が芝居小屋を建てた。正式名は「長

楽劇場」として住民に親し

用されることに。そして現在地に明治四十三年、阪鶴

もギッシリと立ち並んだ。



大正11年の秋祭りの際、各神社からのみこしが集まり、にぎわう天神馬場(綾部史談会編「ふるさとの思い出写真集・綾部」から)

る人も多い。しかし、そんな天神馬場も、昭和三十一年から着手された都市計画街路事業によって消滅を余儀なくされた。現在、その場所は市街地を東西に貫く府道福知山綾部線やNTT綾部営業所、市営駐車場などに姿を変えている。

### 面影残す天満宮

その中で唯一、昔の面影を残すのは綾部天満宮。元々は、雷による火災が多発したため、それを鎮めるために綾部の地に祭られたらしいが、学問の神様・菅原道真公を祭神とすることから、学業の上達などを願う人々の信仰心は根強い。特に受験シーズンを前にした一月二十五日の「初天神」の大祭の時には、合格祈願の受験生らが数多く足を運ぶ。(細見)

### 秋祭りに4社のみこしもつとって...